

種子島に隣接している馬毛島に自衛隊施設を建設しており、今までの農繁期に雇用していた地域内短期労働者も建設作業員として馬毛島で就労しており、種子島の農業における労働者不足は深刻化している。  
平成12年の臨時雇用の延べ人日が20,180人日に対し、令和2年は13,833人日と農繁期の雇用が減少している。総農家数が減少している状況で耕作放棄地が少ない大空町では、労働力が減少していることが数値からでも理解できる。

### 事業実施主体構成員

ハレノヒ株式会社

### 協力機関・連携先等

種子島  
鹿児島県熊毛支庁農林水産部農政普及課  
種子島アグリタス協議会  
大空町  
北海道オホーツク総合振興局農務課  
大空町地域雇用創出協議会

## 令和6年度取組み内容

### 今年度の取組み内容

#### ア 労働力の需給状況の把握（地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等）

種子島  
認定農業者対象にアンケートを送付した。1月にアンケートを回収し、解答率は20%。  
50%が「労働力が不足している」と回答しており・・・。  
大空町  
11月に女満別農協青年部 対象に地域労働力現状調査を実施した。  
解答率が56%で53%が「労働力が不足している」と回答しており・・・。

#### イ 産地内での労働力確保・育成

##### 確保した労働力等の活用

- ・ 実証を基に自走する課題を抽出して解決案を各協議会で専門委員会を設置して協議した。
- ・ 実証事業による課題抽出、課題解決案を提示し、課題解決案を実施する。課題解決できない案件について、要件を整理して、自走プランを計画した。

##### 説明会の実施日

種子島：5月14日      大空町：11月22日      霧島市：11月1日      旭川市：11月22日

### 設定した成果目標・目標に対する進捗状況

①産地の労働力需要に対する充足率：

#### ▼設定した成果目標

種子島  
・ 事業開始時の充足率70%⇒目標充足率80%  
大空町  
・ 事業開始時の充足率80%⇒目標充足率90%

#### ▼R7.2末現在の進捗状況※概算

種子島  
・ 令和7年2月途中経過の充足率70%（7人/10人）  
大空町  
・ 令和7年2月途中経過の充足率80%（6人/7.5人）

## 今年度の取組み内容

## ウ 他産地・他産業との連携による労働力確保

<他産地と連携した労働力確保>

## 1 空町

・大空町のカボチャ収穫時期（9月～10月）に他産地（西之表市及び中種子町）と連携し、繁忙閑散期の異なるエリアからの労働力6名の受入れを実施。

ア 募集する労働者の居住地（出発地）：種子島

イ 労働場所（目的地）：北海道大空町

ウ 宿泊場所：網走セントラルホテル（網走市）、ホテル山水（大空町）

エ 募集条件：農業者及び農業従事経験者

## 2 種子島

・種子島（西之表市、中種子町、南種子町）のサトウキビの収穫時期及びジャガイモの播種時期（12月～2月）に他産地（北海道大空町及び旭川市）と連携し、繁忙閑散期の異なるエリアからの労働力7名の受入れを実施。

ア 募集する労働者の居住地（出発地）：北海道大空町及び旭川市

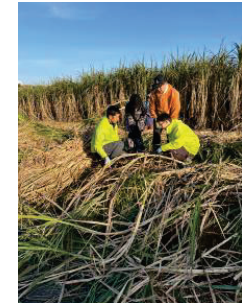
イ 労働場所（目的地）：種子島（西之表市、中種子町、南種子町）

ウ 宿泊場所：ホテルレクストン種子島及び、サニースポット

エ 募集条件：農業者及び農業従事経験者



カボチャ収穫作業（大空町）



サトウキビ収穫作業（西之表市）

## オ 農業の「働き方改革」への取組

産地間連携により新規雇用や臨時雇用により就労者が地域に今後増加するが、就労環境が整備されていないと離職等へ繋がる可能性が高い。農業のような自然に影響される労働環境でも就労環境が今後、必要とされている。農業の「働き方改革」を進めるにあたり、以下の取組を実施した。

有識者を交えた勉強会の実施（種子島及び大空町）

地域農業者対象にアンケートを実施し農業の「働き方改革」の浸透を調査した。

## アンケート結果

## 大空町

- ・令和6年11月22日開催の働き方改革研修後に働き方改革アンケートを実施した。
- ・調査対象者：女満別農協青年部が約30名参加
- ・解答率 66%
- ・働き方改革の講義を聞いて、意識が変わったのは14名（70%）

## 種子島

- ・令和6年10月21日開催の働き方改革研修後に働き方改革アンケートを実施した。
- ・調査対象者：アグリタス協議会（生産者団体）約8名参加
- ・解答率 75%
- ・働き方改革の講義を聞いて、意識が変わったのは4名（50%）

## 本事業取組みにおける成果項目

1. 成果項目  
  充当率：種子島80%      大空町90%
2. 確認できた項目  
  農業経営悪化しているが人手不足の農業者がおり、  
  収益性のある農業経営しないと季節労働者雇用も  
  困難な農業者もいる  
  農業家族経営では、雇用が困難
3. ターゲット層  
  農閑期の農業者
4. 課題
  - ① 賃金支払い能力が無いのに、人手不足
  - ② 地域間による賃金格差（単価が異なる）
  - ③ 労働対価の賃金
  - ④ 労働期間と現地物価対策
  - ⑤ 出稼ぎ労働では参加が困難

## 次年度以降の取組み内容

今年の改善点を踏まえて、以下のとおり ブラッシュアップします。

1. 成果項目  
  目標の充当率：種子島83%      大空町93%
2. ターゲット層  
  農閑期の農業者  
  フリーランス  
  早期定年退職者  
  農業ビジネスの検討者 他
3. 課題解決案
  - ① 農業の多角化経営
  - ② 賃金支払いに満足できる作業の業務
  - ③ 宿舍の低価格化
  - ④ 農業の付加価値化、他産地の価値活用等、ビジネスの魅力獲得など

( **ハレノヒ株式会社** )

事業実施期間 **令和7年度<産地間連携等推進タイプ>**

( **鹿児島県・北海道** )

令和6年度補正  
雇用体制強化事業

種子島に隣接している馬毛島に自衛隊施設を建設しており、今までの農繁期に雇用していた地域内短期労働者も建設作業員として馬毛島で就労しており、種子島の農業における労働者不足は深刻化している。  
平成12年の臨時雇用の延べ人日が20,180人日に対し、令和2年は13,833人日と農繁期の雇用が減少している。総農家数が減少している状況で耕作放棄地が少ない大空町では、労働力が減少していることが数値からでも理解できる。

### 実施主体の構成員

ハレノヒ株式会社

### 協力機関・連携先等

種子島  
鹿児島県熊毛支庁農林水産部農政普及課  
種子島アグリタス協議会  
大空町  
北海道オホーツク総合振興局農務課  
大空町地域雇用創出協議会

### 設定した成果目標・目標に対する進捗状況

産地の労働力需要に対する充足率：

#### ▼設定した成果目標

種子島

・事業開始時の充足率70% (7人/10人) ⇒目標充足率82%

大空町

・事業開始時の充足率80% (10人/13人) ⇒目標充足率92%

#### ▼R8.2末現在の進捗状況※概算

種子島

・令和8年2月途中経過の充足率70% (7人/10人)

大空町

・令和8年2月途中経過の充足率80% (10人/13人)

## 今年度の取組み内容

### ア 労働力の需給状況の把握(地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等)

- 種子島で令和7年9月13日にワークショップを実施し、労働者及び雇用者側と意見交換して労働者側も雇用者側の意識を理解できた。  
本調査の結果、農業アルバイト希望者は賃金水準のみならず、住居環境や職場の人間関係、休暇制度等を含めた総合的な労働条件を重視していることが明らかとなった。特に「人が良い」「働く人を大切に作る風土」といった職場環境が、継続的就労意欲に強く影響している。
- 大空町で令和7年9月24日にワークショップを実施し、労働者及び雇用者側と意見交換して労働者側も雇用者側の意識を理解できた。  
本調査の結果、大空町における農業アルバイト希望者は、賃金水準に加え、職場の人間関係や受入体制、働きやすい雰囲気重視していることが明らかとなった。特に「楽しみつつ稼ぐ」「ウェルカムな環境」といった回答が多く、短期滞在型・交流型就労モデルの有効性が示唆された。
- 旭川市で令和7年10月11日にワークショップを実施し、労働者及び雇用者側と意見交換して労働者側も雇用者側の意識を理解できた。  
本調査の結果、旭川市における農業アルバイト希望者は、賃金水準に加え、労働内容や勤務時間、職場の人間関係といった基本的な就労環境の安定性を重視していることが明らかとなった。特に「労働環境と人間関係の良さ」が継続就労意欲に強く影響しており、安定的な受入体制の整備が重要である。

### イ 産地内での労働力確保・育成

種子島は、宿泊施設不足から現地滞りて農業することが困難。首都圏より農業アルバイト者はいたが、直前に業務都合により不参加となった。

今後、中種子町に宿泊施設増設する計画があり、ドミトリタイプのため低価格で提供する。

大空町は、10名の参加者が定期的に農業アルバイトする方針。農業アルバイト+観光で地域に根付き始めている。アンケートからの農業雇用主の人柄も関係があり、親交を深める工夫として、上京の際には、北海道農業の勉強会等を開催し農繁期以外の交流も重要視している。

### 今年度の取組み内容

#### ウ 他産地・他産業との連携による労働力確保

<他産地と連携した労働力確保>

募集する労働者の居住地は、産地間連携（大空町及び種子島）以外に首都圏も含めて実施した。

1. 大空町

大空町のカボチャ収穫時期（9月～10月）に首都圏から、農業アルバイトとして労働力10名を受入れた。

ア 募集する労働者の居住地（出発地）：種子島及び首都圏

ウ 宿泊場所：お試し暮らし施設

イ 労働場所（目的地）：北海道大空町

エ 募集条件：農業に興味のある方々

2. 種子島

種子島のサトウキビ収穫時期（12月～3月）に首都圏から、農業アルバイトとして労働力3名の参加者があったが、諸事情によりキャンセルとなった。

ア 募集する労働者の居住地（出発地）：北海道及び首都圏

ウ 宿泊場所：民泊施設等

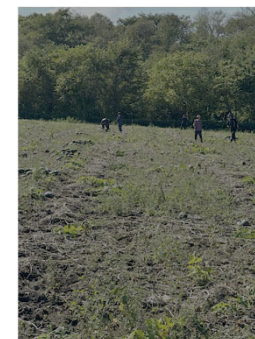
イ 労働場所（目的地）：種子島（西之表市、中種子町、南種子町）

エ 募集条件：農業に興味のある方々

3. 旭川市

産地間連携として種子島の農業者を労働力として要望がある。時期は、5月ごろで2週間程度。旭川市の農業は水稲作業に労働者不足が深刻の問題である。

昨年、種子島の産地間連携に参加した農業者と連携による労働者不足問題の解決を検討している。



#### オ 農業の「働き方改革」への取組

地域の農業経営者が「作業の効率化と機械化」および「就労者の多様化と教育」について、その重要性をどの程度理解し、地域での取り組みにどう活かすと考えているか。

大空町及び種子島で勉強会を開催し、理解度を確保するためアンケートを実施した。

(大空町)12月8日実施

労働力不足の主因

▶ 合計79%が「構造的要因(高齢化+家族労働減)」

解析

一時的な人手不足ではなく、恒常的・構造的不足

今後も自然減少が続く可能性が高い

働き方改革セミナーに対する反応

▶ 理解度は上昇したが、行動変容までは未達

労働力確保が難しい理由

解析

最大のボトルネックは「賃金水準」

→ 建設業・土木業との競合

住宅不足が2番目

→ 短期滞在型雇用モデルに障壁

情報流通不足

→ マッチング機能未整備

(種子島)11月7日実施

労働力不足の主因

上位回答:

雇用者の高齢化、家族労働力の減少、馬毛島建設による流出

▶ 解析

種子島は他地域と異なり、外部要因(建設業への流出)が明確な構造的圧迫要因

単なる人口減少ではなく、「地域内労働市場の競合」が深刻。

労働力確保が難しい理由

解析

① 賃金競争で不利

→ 建設業(日給高水準)との直接競合

② 宿泊インフラ不足

→ 建設関係者による宿泊施設長期占有

③ 短期雇用モデルの限界

→ 交通費・滞在費を賃金で吸収できない

働き方改革セミナーへの反応

大空町よりも「即効性対策」への期待が強い。

長期ビジョンよりも目の前の人手確保が最優先課題。

### 本事業取組みにおける成果項目

1. 成果項目  
目標の充足率：種子島82% 大空町92%
2. 確認できた項目  
農業労働者対象の宿舎が必要  
「農業労働賃金合計 > 旅費宿泊費」が必要  
農業労働力は相互補完要素が強い
1. ターゲット層  
農閑期の農業者  
フリーランス  
早期定年退職者  
農業ビジネスの検討者 他
2. 課題解決案
  - ① 農業の多角化経営
  - ② 賃金支払いに満足できる作業の業務
  - ③ 宿舎の低価格化
  - ④ 農業の付加価値化、他産地の価値活用等、ビジネスの魅力獲得など

### 次年度以降の取組み内容

今年の改善点を踏まえて、以下のとおり ブラッシュアップします。

1. 成果項目  
目標の充足率：種子島82%を維持 大空町92%を維持
2. ターゲット層  
農閑期の農業者  
フリーランス  
早期定年退職者  
農業ビジネスの検討者 他
3. 課題解決案
  - ① スマート農業の導入による労働需要の低減  
人口減少および高齢化の進行を前提とし、労働力確保のみを対策とするのではなく、労働需要そのものを削減する構造的改革を進める。
  - ② 農業経験者の優先的マッチング  
受入地域において即戦力を求める傾向が強いことから、農業経験者を優先的にマッチングする仕組みを構築する。
  - ③ 農業労働者宿舎の整備  
特に離島地域においては、宿泊施設不足および価格高騰が参加障壁となっていることから、農業労働者専用宿舎の整備を検討する。
  - ④ 産地間相互補完意識の醸成  
本事業は、農繁期が異なる産地間において労働力を相互補完する取組であり、単一地域のための利益を追求するものではない。